

《巻頭言》

地域の中核となる大学を目指して

理事・副学長(研究・地域連携担当)

佐野孝治

新型コロナウイルス感染症が「5 類」に引き下げられ、ようやく社会が落ち着きを取り戻してきた現在、今年度も研究年報を刊行し成果を公表できることを喜ばしく思い、日頃より皆様方からいただいているご理解とご支援に改めて御礼を申し上げます。

ところで、福島大学は、「地域と共に 21 世紀的課題に立ち向かう大学」を基本理念としています。複雑な 21 世紀的課題を解決するためには、総合知を活用した新たな価値の創出=イノベーションが不可欠だと考えています。文部科学省も、地域の中核となる大学の実現が、地方の活性化にとどまらず、我が国全体の変革の駆動力になると考え「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」の拡充を進めています。これは、研究力の飛躍的向上に向けて、強みや特色ある研究力を核とした経営戦略の構築を前提に、大学として研究活動の国際的展開や社会実装の加速・レベルアップを実現できる環境を整備していくことが求められています。

地域において、大学が果たすべき役割は、①人材育成機関としての役割、②高度な研究能力を有する機関としての役割、③地域の文化・歴史を発展・継承する役割、④知と人材のハブとしての役割など多様ですが、この中でも、特に、強みや特色ある研究力を飛躍的に高めることが重要だと考えています。

そのために、福島大学では、大学院改革を行い、2023 年度から食農科学研究科を新設するとともに、これまでの人文社会科学系の 3 研究科を地域デザイン科学研究科と教職実践研究科に再編し、「イノベーション人材」を養成しています。さらに、強みや特色ある研究力・教育力を高めるために学士課程の改革に取り組んでいます。

こういった組織改革に加えて、本学は多くの研究事業への参画も図っています。まず、今年度、大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材)に採択され、「探求体験に裏付けされた実践力」と「現実課題に対する視野」を備えた情報人材を育成していく計画です。次に、福島国際研究教育機構(F-REI)による第1～5分野での公募に対して、本学を代表として申請した事業8件を含む合計14件の申請を行いました。現時点では、結果はまだ出ていませんが、本学の研究シーズの多さを象徴していると思います。続いて、来年度に向けて、水素エネルギー総合研究所(仮称)の設置を目指して、福島県や福島市とも 2050 年度ゼロカーボンシティの実現に向けた協定を締結するなど着々と準備を進めています。

このように、本学には、地域に根差した、未来につながる研究が数多くあります。今後、地域の中核となる大学を目指して、強みや特色ある研究力を飛躍的に向上させていきたいと思っております。皆さまのご理解をいただきますとともに、いっそうのご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。